



福井商工会議所 青年部会報

FUKUI

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

No. 59

第59号 平成5年3月24日発行

発行所

福井商工会議所青年部：福井市大手3-13-1
13-1, 3-Chome, Ohte, FuKui-City, JAPAN 〒910
TEL:0776-23-8111 FAX:0776-23-8475

発行者：大須賀廣美

編集者：橋 敏夫

福居



平成5年度 福井商工会議所青年部 基本方針

ヨーロッパの統合や中華人民共和国の民主化など国際社会が大きく変わろうとしているこの時期に商工会議所が新築・移転されるなど、二十周年をむかえた私たち福井商工会議所青年部も、まさに転換期にきています。

私は、この機会に、組織をわかりやすくし、いつでも、誰が、何を、なぜ、しているを伝えます。時間を大切に、夢に向かって楽しく活動する青年部にします。みんなでイキイキと楽しく、国際社会の一員であるべき国際人としての教養を高め、地域を支える青年経済人として、先導者たる気概で研鑽に努めます。

しょう。

人は、魅力ある街に集います。人が定着しない街には、企業も定着できません。街と人と企業とは、密接なつながりを持っています。福井の活性化のためには、心の豊かさとともに、福井が魅力ある街に脱皮することが必要なのです。

市民ひとり一人が、自分のまわりをきれいにしだした時、街づくりはできています。街づくりは、まず、みなさんの心の中から始める必要があるのです。

私たち福井商工会議所青年部は、福井市のよりよい街づくりをめざして、昭和五十三年より、毎年「市民の広場」を開催してきました。

十六回を重ねた「市民の広場」事業からさまざまなアイデアが生れ、ふくい祭のおみこしコンクールや、足羽三山の桜ルネッサンス、ハートランド事業などへとつながっています。

福井が魅力ある街に脱皮するには、市民のみなさんをはじめ、各団体・企業の参加が必要です。豊かな郷土を築くには、みなさんの総意と工夫が必要です。わたしたちは、勇気と情熱を傾けて、アイデアを持ちよる場を作らなければなりません。

そして、文化を伝承しつつ新しい文化の創造に向かって、みんなでいっしょに歩を進めて行きましょう。

平成五年度会長

松木延倫

「会頭と語る会」開催！

一月二十七日、福井商工会議所会頭、市橋保氏を、迎えて、毎年恒例となりました「会頭と語る会」が、フクイユアーズホテルで、青年部会員約三十名が出席して盛大に行われました。今年の「会頭と語る会」は、青年部会員の質問事項に基づいて、会頭に語っていただくことになりました。

福井駅前再開発、特に地下商店街のプラン、また、中国との経済協力についてのお考え、バブル崩壊後の福井県及び日本経済の現状について、熱く語っていただきました。

次に青年部会員との質疑応答に入り、親商工会との交流、青年部卒業年齢の引き上げ問題、新しい商工会議所についての説明等について、お話ししていただきました。

次に、懇親会に入り、会

頭を囲んで、日頃、あまり話す機会のない会頭と、忌憚のない意見の交換、又、青年部会員同志の親睦が、はかられました。

会頭は風邪気味というところで、定刻より早目に、退席なさり、青年部会員がお見送りしました。

会頭退席後も、青年部同志、友情を深め、今年度の「会頭と語る会」も、終了しました。

「市長と語る会」開催！

恒例の「市長と語る会」が、二月二十四日（水）午後六時より、福井パレスホテルにて開催されました。

市長卓話では、今回は福井市の都市計画について語っていただきました。平成十八年完成予定の「駅周辺土地区画整備事業」。新幹線乗り入れ等の「連続立体事業」。平成八年完成の駐車場「本町明里線地下事業」。平成二年に基本設計

は終えているが、バブルの影響をうけた「三の丸地区開発事業」。また都市景観条例に基づき、「彫刻のある街づくり」に力をいれている等、市長の「楽しい、美しい、きれいな、センスのある街づくり」について具体的なお話をいただきました。

また、福井市の街づくりの市制施行当時から歴史を踏まえ「戦災復興土地区画整備事業」「公共下水道の整備事業」等「街づくりの基本は、個人が安全な街。防災、水害、火災、天災など、福井の街は水害に弱い街である。最近は安全があたり前で、過去の歴史を忘れてしまう。地震も忘れてはならない。しかし都市計画は非常に時間がかかるが、一つ一つ、市民のご理解をいただき、個人が安全な街づくりをしていきたい。」とのことでした。

その後懇親会となり、有意義な時間を過ごしました。

真木 康至

「県連合員大会にて」

二月二十八日（日）勝山にて第九回福井県商工会議所青年部連合会会員大会が盛大に開催されました。

「YEGは地域リーダーたれ」のスローガンのもと左義長まつりの日に、県連合員が一堂に会し、相互の研鑽に励むとともに、交流・連帯の一層の強化を図りました。登録数百八十五名、三谷県連合会長のあいさつにもありましたが、横の連絡を密にし、単会の壁を外し、事業を県下で行ないたい、まさに山形宣言を遂行しております。

今回は「乗って残そう京福電車」を合い言葉に、京福線問題を考えながら一時間の電車の旅をして勝山に向いました。丸屋仁志氏による「左義長について」の講話をうかがって、夜の散策へと出かけました。分科会では①研修、②広報、③交流、④会員開発、⑤イ

ベント部門に分かれ、平成四年度の事業報告を各単会ごとに発表し、意見交換を行ないました。残念な事に一時間しかなかったため深い討論はできませんでした。ぜひこのような会をも

うけていただきたいと思いをもちます。今回より優秀単会を選んだのですが、福井青年部は「謙虚の塊？」残念ながらどの部門も選ばれませんでした。しかし懇親会の席では、各単会会長によるニューハーフ大会でみごとに大須賀会長が優勝いたしました。さすが県都福井、と県連にアピールしました。

最後になりましたが、左義長まつりという町を上げての行事の中、主管していただいた勝山青年部の方々、また、単会・県連と東奔西走されている役員の方々に心より御礼申し上げます。また、いつの日か全員参加の県連合員大会が開催されますよう共にならばりましょう。

（田谷）

青年部海外視察 研修に行つて

二月十日、福井商工会館から、青年部大須賀会長他十七名は、第二回海外研修に出発した。

夕方四時上海空港に着陸し、バスにて杭州市に向かったが、交通規制の杜撰さには驚かされた。

二日目、浙江省人民政府外事辦公室の関係者と懇談した。杭州市は、一九八九年十一月に、福井市と友好都市の提携が行なわれ、観光地及び歴史有る街として知られている。

その後、我々は、杭州市長との会談が許され、大武



福井市長の親書が大須賀会長から、杭州市長へと手渡された。

昼食後、杭州裝飾材料工場を見学した。蔣岌正社長自ら工場内を案内して頂き、青年部との活発な意見交換（工業設備の輸入先、労働条件、税率などその他）が行なわれた。

夕食は、杭州市の企業関係者との会食が催された。二時間余り各テーブルごとに和やかに意見交換をした。杭州政府及び企業関係者は、日本に対し、技術指導と合併企業の設立を熱望していた。

中国の夜の娯楽は、ディスクとカラオケBOXが大流行していた。私も、中国人の若者達とカラオケを歌いあつた二夜はとても楽しかった。そして、中国人女性の美しさに四千年の歴史を感じとつた。

三日目、杭州市内見学。西湖の南に位置する「六和塔」へ、宋代の建立であり、一千年の歴史を持つ建物。



息を切らせて十三階を（実は七階建）駆け上がれば、眼下に銭塘江の雄大な流れが一望出来た。広大な風景にまさに「中国」を満喫といった処。

名物「龍井茶」の中華料理で少し疲れた胃と口を休めて、「西湖」へ、ボートで遊び、湖畔を散策すれば日頃の気ぜわしさもどこへやら。解放路百貨店で土産を買

い、（以外と高級品がある）「楼外楼」で杭州市関係者の方々との懇親会。日中友好の旗印の元、大変楽しい一時を過ぎて頂きました。四日目、汽車に四時間揺られて、上海へ、あふれんばかりの人、人、人に、中

国十億人のパワーを見た。街並みは、租界地時代の名残があり、表向きはアールドコ建築が建ち並び、杭州市とはまるで違ふ国の様。

自転車はあいかかわらず多いが、バイクや自動車もまるで湧いて来る様な勢い。その南京路の賑いを肌で感じながら、豫園、玉仏寺等を見学。途中で見たファッションショーの女性の美しさで、おもわず旅の疲れも取れました。

夜は「上海雑技団」も見れ、思い残すことなく、中国四泊五日の旅を終えました。四千年の歴史を持ち、十億の民を持つ中国。その将来性には計り知れない何かを、感じます。

我々がそこに何か出来ることがあるかを考えただけでも、大変有意義な旅でした。最後にりましたが、浙江省の汪さんを始め、中国の方々には大変お世話になりました。ここに心よりお礼を申し上げます。再会

石川清士・森忠勇喜

トピックス

●舟木幸雄君、名古屋支店長として栄転されました。

●(JTB) 福島幹雄君より加藤信夫君へ会員交代します。

●板倉乾造君新会社設立！
新会社 板倉塗装店
新住所 福井市四ツ居
二二二二七

電話 五五四一三三三七
FAX 五五四一三三三七

●熊谷康心君、一身上の都合により退会。

赤ちゃん誕生

●加藤 幹夫君に三女！

芽生ちゃん九月二十九日生

三村 貞二君に二女！
菜都実ちゃん二月一日生

竹下 英二郎君に長男！
直輝ちゃん 二月一日生

翔生CFC

家族スキー大会 開催！

寒い中、あつたかい豚汁を火に架けた鍋の中から大きなしゃもじで、椀によそい舌を火傷しないように、恐る恐るいただくのは、冬の楽しみの一つです。

これが、野外の、積もつた雪をラッセルし、踏み固められた平らな雪の上に石油コンロを据え火力をめいっばい上げ、大きめの鍋いっぱい造つた豚汁となると一段とおいしくなると言うものです。

この雪の中のスキーと豚汁と一緒に楽しもうと言う企画が、スキークラブによって二月七日九頭竜スキー場で実行されました。

このおいしい豚汁を食べながら、楽しくスキーをしようとして午後から風雨強く、降雨確率一〇〇%との予報がでていにも構わず、朝生暖かい風の中、まだ雨にはならんさ、と福井を出発、

だんだん雲行きが怪しくなるうち、ぼつりぼつりの雨が落ちだしたのは和泉村に入ってからである。

九頭竜スキー場に到着、集合場所に向かえば、橋会員の尽力により、豚汁は既に出来上がり、雨避けのシートを立ち木を利用して張りめぐらす作業中であつた。シートが完成したとたんどシャ降りとなり、スキーは中止、豚汁のみを楽しむこととなった。

雨に濡れ、風に吹かれてもおいしいものはおいしいと、参加者全員立ちっぱなしのまま大鍋一杯の豚汁を平らげたところで散会となりました。

前田公孝

リレー随筆

後編

今度は「やせた」と

言わせてみたい
松本 延倫

平成二年

運良くか運悪くかは、今もってわからないが、こんな生活が半年ぐらいつづいたころ、市役所から通知がきた。老人保険法に基づく健康診断の案内であつた。老人？失礼な。オレは四〇才になったばかりでアラセラルぞ。バカにするでない。と、頭にきたついでに、そのままホッテおいた。

また、来た。

四〇才未満の方は、いずれ、ご経験なされることであらう。

これが、シッコイ。受けるまで来るらしい。検査の結果は、肝機能および血中脂肪濃度異常の疑い。ヨーするに、酒の飲み過ぎ・運動不足である。

治療を要するほどではない。気をつけなさいという範囲であつた。医者の話も、みんな同じだった。肉・塩分をひかえめに。魚・野菜を中心に。

酒は一日一合二合。

週に二回は休肝日。

定期的に運動すること。「調査士という仕事柄、現場も出ますし、杭打ちなどで運動不足ではないと。」

医者の答えは明解だった。「それは、急激に無理な運動をしているだけで、体にはかえってマイナス。毎日、決まった時間するのを、定期的と言います。」

さらに追討ちをかけるように、頭と背中にブツブツができた。目立ちもしないが、頭がカユイ。

皮膚科に行つた。さすがに医者である。心配していた頭の中身は一切ふれず、

「脂肪のとりすぎです。野菜中心の体質改善をしないとなおりません。」

一言で、チヨン。検査結果(血中脂肪濃度)は、正直である。これも、ヨーするに、酒の飲み過ぎ・運動不足が原因だった

のである。

平成三年

かくて、一念発起をした次第。

以前、青年部例会でヨーガをしたことがあつた。たしか、武道館で。食事は越前屋徳兵衛だったはず。ヨーガなのに、肉ばなれの荻安さんがいて、どっちかといえは人間ばなれだなあと思つたものだ。

最近のお骨折りにくらべれば、ものの数に入らなかつたのかもしれない。

その時から、体にいいらしい、とくに、顔および態度ならびに口や頭以上に悪い鼻をおすには一番いいらしい、どうせ体を動かすなら、とは思つていた。

そして、覚えやすくて忘れられない平、三、四、五日以来、毎週水曜一〇時から、社会保険センターのヨーガ教室に通つている。

以下は、ヨーガの坪田先

(前頁よりつづく)

生からの受け売りである。人間、そう食べなくても十分体力を維持できる。

胃腸の強い人は、吸収力がいいから、少しだけ食べておけばよい。

反対に弱い人は、食べすぎによって胃腸を壊すため、むしろ食べないほうが吸収力が回復してくる。

どつちにころんでも、食べないほうがいい。

肉は、体によくないし、まったく食べなくても十分生きていける。

先生は、軽く一膳、おかずは一品。ただし、体を動かしているから持つている。力が出ないとのこと。

よく若い人で、過度のダイエットによる骨粗鬆症を聞くが、あれは運動不足が原因で、運動さえしていればならない。

たしかに、ボクシングなど減量が必要な種目や、新体操などスリムな体型を要求される選手は、ほとんど

食わずにあれだけの運動量こなしていると聞く。

ライオンなどの肉食獣は短命である反面、馬・牛などの草食動物は長命が多い。肉食主体の欧米人は、

パワーはすごいが太っていて、痩せているアジア系人種より寿命も短い。

肉は、いちばん太りやすく寿命も縮めるようである。

そういえば、永平寺のお坊さんがたは長生きなされるかたが多い。座禅をくみ、声をだし、肉を食わず、小食である。

ヨーガとまったく同じ行をなさっている。

考えてみると、四〇過ぎのほとんどの病気は太り過ぎが原因であると言っても過言ではない。おそらく、

食べ過ぎと飲み過ぎにさえ気をつけられれば、たいがいの病気は心配しなくていいの

〈平成四年〉

そんなこんなで、もとも

と各方面にひっかかりがあったから、「やせられるものならなあ」とは思っていた。そのうえでこの超過である。

正直言って、これは、コタエマシタネ。

一言に素直にしたがって、私は、大減量作戦を開始するハメになった。

食べない。

なお、副食は魚・野菜を中心にしよう心がけている。ただ、家内は、

「肉を使わないと、作る種類が限られてしまうのよ」と、もともと肉が好きないもあって、あまりいい顔はしてくれない。

「食べない」

やってみると、ツライよ。朝食は七時ごろ軽く一膳。したがって、九時から一〇時には腹がへる。

昼食も、軽く一膳。とはいもの、どうしても早くなる。一二時前にはすでに

時ごろ腹がへる。

間食は一切しない。

ジュースは飲まない。できるだけ烏龍茶に。

コーヒーには、なにも入れない。

夕食も軽く一膳。

ビールのは、なるべく副食だけ。

当然、腹がへる。

仕事のある時は、夕方まで忘れているが、意識にのぼるとたまらない。

とにかく、腹がへる。ジツに、ツライモノがアリマス。

そのカイあって、現在体重は、六二kg前後。ズボンが合わなくなつて、四cm以上縮めた。

GPT(肝機能)も半減し体調はいい。ヨーガは毎朝するよう心がけている。

ところが、青年部がいつもジャマをする。二次会さえ行かなければ……、とは解

っている、青年部から飲みニケーションを抜いたライツタイにが残るの

ナ?、などと勝手な理屈はともかくウマイ。

たしかに、今度は、「やせたね」と言わせてみたい。が、そのためには、

このうえ酒を……。

なんてことを言つたら、いつまでたつてもやめられないではないか、という訳で、私にとって記念す

べき日となつた一〇月二七日以後、特別の日をのぞいて、家での酒はやめることにした。

ところが、最近、ほとんど毎日、外で飲んで

タバコもやめた。

なにも、人生の楽しみをまたひとつ減らしてまで……、とも思わないではない。でも、チャレンジしてみようと思うのである。

「腹八分目」

どうやら、体重に反比例する性質をもっているらしく、長い歴史に裏打ちされたこのことわざが、日に日に重くなる今日このごろである。